

複数の国語辞典を

引き比べてみよう

《配当時間》

1 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

《学習目標》「1」は対応する学習指導要領の指導事項を示す

・語彙について関心をもち、語感を磨く。

1年【言(ウ)】／2年【言(イ)】／3年【言(イ)】

同じ「国語辞典」でも、辞書によって、書かれている語釈は違います。ここでは、そのことに気づき、「物事の説明の仕方にはいろいろある」と認識する学習に役買うワークシートを提案します。

このワークシートは、個人の活動として使用することもできますし、グループでの活動として取り組むこともできます。グループ活動とした場合には、生徒同士の「対話」を生み出す場面も多く見られると思います。

複数の辞書で同じ言葉について調べる活動では、複数(できれば四種類以上)の国語辞典を準備し、各辞書で語釈がどのように異なるかを引き比べる活動を想定しています。調べる言葉は、「うれしい」のような形容詞、「走る」のような動詞、「音楽」のような抽象的な概念を表す名詞が適しています。また、日頃わざわざ辞書を使って調べないような身近な言葉を選ぶことで、あらためて言葉につい

て意識することにつながる活動にもなります。複数の辞書で調べた後には、気づいたことを言語化し、振り返ります。まずは全員が、辞書によって書かれている内容や分量が異なることに気づくことが大事です。

次に、辞書によって語釈が違うことをふまえたうえで、自分でも語釈を考えてみます。ここで見出し語として設定する言葉は、①で調べた言葉以外に、新たに設定します。生徒にとってなじみのある言葉を選ぶのがポイントです。身近で知っているとあった言葉でも実際に書いてみると、説明の仕方はひとつでないことの難しさにも気づくと思えます。

ペアやグループで同じ言葉についての語釈を考え、それぞれの内容を比べて共通点や相違点を交流する活動や、ひとりひとりが違う言葉について担当し、ひとつにまとめて辞書を作る活動につなげて、この学習を終えます。

■学習の流れ

時	学習活動
1	<p>(1) 複数(できれば四種類以上)の国語辞典を用意する。(グループでの共用もあり)</p> <p>(2) 調べる言葉を決め、複数の辞書で語釈を引き比べる。</p> <p>〈★ワークシート①〉</p> <p>(3) (2)の活動を通して気づいたことを振り返りまとめる。</p> <p>〈★ワークシート②〉</p> <p>(4) 見出し語とする言葉を決め、各自で語釈を考える。</p> <p>〈★ワークシート③〉</p> <p>(5) ペアやグループで同じ言葉について語釈を考え、書いた内容を交流する。もしくは、クラスの全員が違う言葉についての語釈を考え、一冊の辞書にまとめる。</p>

複数の国語辞典を引き比べてみよう

—辞書による語釈の違いを知ろう—

年 組 番 氏名



① 複数の国語辞典で同じ言葉について調べてみよう

◆調べる言葉（辞書の見出し語） 「」

調べた国語辞典の名前	語釈（言葉の意味）
『 』	
『 』	
『 』	
『 』	

② 辞書を引き比べて気づいたことをまとめよう

・

・

③ 言葉を決め、自分で語釈を考えてみよう

(語釈)

(見出し語)

【】